

3年2組

ニコとミッケと幸とのくらし ～ニコとミッケの子「幸」の誕生～



本当に大切なこと

6月25日、18時37分、ニコが一頭の雄山羊を出産しました。約3900g（出産翌日測定）と、とっても大きな赤ちゃんで、佐藤獣医もびっくりしていました（1500～2500g程のことが多いそうです）。事前に佐藤獣医から、一頭の場合はおなかの中で産道を通らないくらい大きくなってしまうことがあり、帝王切開をしなければならぬことがあるため、それが心配だと話を聞いていました。「楽しみだけど、ニコや赤ちゃんが死ぬのだけはかんべんしてほしい」と日記に書いていたAさんは、その話を覚えていて、「一頭だけってまずいんじゃないかっただけ」と心配そうにわたしに尋ねてきました。しかし、一頭だけで大きく育った赤ちゃんを、ニコは、わたしたちが祈っていた安産で産みました。それを知ってAさんは、安心している様子でした。Aさんは、赤ちゃんの名前を決める際、「運がいい子」と、一頭の安産について語りました。「奇跡だ」という声が上がりました。そんな奇跡の子。幸運の子。これからも幸せに生きてほしいといった願いを込めて、「幸（こう）」と名付けました。



ニコが幸を産んだ時のこと、わたしは自分の心臓がどんと大きく動いていったことを覚えています。しかしそれは、期待でも喜びでもなく、「まずい」といった思いからでした。18時半頃、佐藤獣医とニコの様子を観察し、一次破水がまだ起きていないと判断したことから、出産まではまだ時間がかかりそうだと考え、長くなるかもしれない夜に備えてわたしたちは一旦小屋から離れました。しかしその直後、ニコは出産を始めました（後で分かったのですが、どうやら、一次破水・二次破水・出産が同時に起きたようです）。この時、わたしは「まずい」と思ったのです。なぜなら、わたしは、ニコの出産の瞬間に子どもたちが立ち会えるようにしなければならないとずっと考えていたからです。子どもたちも保護者の皆さんも、今か今かと連絡を待っていたはずなのに、それに応えることができなかったからです。小屋に着いた時、そこには羊水で体が濡れた小さなニコの赤ちゃん（幸）と赤ちゃんをなめるニコがいました。大学院生のBさんが全力疾走で校舎へ向かい、多くの先生たちが小屋へ走ってきました。きっと心を大きく動かしながら味わうと思っていたその時を、呆然と見てしまうわたしがいました。この時のわたしは、ニコが安産で無事出産した喜びや安心といった思いより、子どもたちが出産に立ち会えなかった申し訳なさの方が大きかったからです。このあと続々と集まってきた子どもたちと保護者の皆さんの姿や声に救われつつ、待ち望んだこの素敵な時間を共に味わおうと思いつつも、申し訳なさをずっと引きずっていました。しかし、子どもたちにとって一番大切だったのは出産の瞬間を見るということではなかったということに、後の子どもたちの言葉から気づかされました。ニコの出産を振り返った子どもたちの言葉の一部です。



- 幸くんが生まれた時、すごくかわかったし、ものすごく不安が晴れたと思う感じだったし、言い切れないくらい、ものすごくうれしかったです。（Cさん）
- 赤ちゃんを見た時、ニコにもミッケにもすごくてて、かわいいなと思いました。ニコも赤ちゃんもすごく頑張ったんだと伝わってきました。あと、一次破水と二次破水と出産が重なったうえに、一人で出産もしたから、わたしは、本当にニコはすごいなと思いました。しかも安産だから、すごく幸運だなと思いました。わたしは、赤ちゃんの名前が幸で、ぴったりだなと思いました。幸くん元気に育つんだよ!!これからよろしくね。幸くん。ニコ、出産おめでとう!!（Dさん）
- 幸くんのことを、ニコがなめてて、ニコがお母さんになって、すごく嬉しかった。どうしてかとゆうと、幸くんの近くにいる、自分の宝物みたいに大切に、偉いと思う。（Eさん）

- もう一匹くるのかな？と思ったけど、1匹だけで、それで最初は、何だ1匹だけなのか。と思ったけど、最初に思ったことは、なくなった。…生まれるときに、赤ちゃんやニコが死んじゃうかもしれないという覚悟を持って生んだ。その結果、誰も死ななかったからよかったと思った。ニコは、初めて自分の子を生んで、その時にミッケがニコのことを見てたし、幸くんのことも見てたから、優しいなと思った。（Fさん）
- ほっとした。だって、何個かの出産があって、その一つが当たりって言うのは難しいし、一つの命が生まれたのは奇跡だと思う。ニコは、覚悟したんだと思う。だって、死んじゃうかもしれない、怖い、だけど頑張ろう、覚悟する。なめているのは、ちゃんと育ててるっていう証拠。女の子もよかったけど命が生まれるのは、奇跡。だから性別とかは、関係なくすごく嬉しくなった。今までにない嬉しさだった（Gさん）
- オスでもメスでもニコががんばって安産で生まれてくることが一番。ニコとミッケの幸せに一步近づいたと思う。…言葉が分かるわけじゃないけど、いっしょにくらしているだけで家族みたいなものに幸くんは感じるかもしれない。いっぱいお世話して、いっぱい遊んで、いっぱい学んだりしているうちに、どんどんなれてくれるといいです。（Hさん）
- 元気に生まれてよかった。心配だった気持ちが、一気にきえた。ニコをかってよかった。今までがんばってよかった。元気にこれからすごしてほしい。（Iさん）
- 一つは、やりとげた感じ。幸くんのこと、大切になめたり見守っていて、ニコはたいへんだったと思うけど、幸くんは一生けんめいに立とうとして、さい後は自力で立てたから、ニコも幸くんもうれしそうに、「やったね」と言っているように見えた。ニコのために、幸くんのために、これからもしくちゃいけないことがあると思います。（Jさん）
- ニコの赤ちゃんが生まれた時びっくりしました。それも夢かと思いました。爆発的にびっくりしました。明日から新しいニコの赤ちゃんとのくらしが始まるんだなと思いました。それで嬉しくなりました。たいばんが出てきて、それをニコが食べました。大丈夫かなと思ったけれど佐藤先生に聞いたら、大丈夫と言っていました。それを聞いたら、ニコも成長してお母さんになったんだなと思いました。すると心の中にニコは大変だったんだなと感じました。それでニコたちとの楽しい毎日が始まると思いました。（Kさん）
- 出産のときすごく心配した。もし生まれなかったらしゅじゅつになるから。けど安産で生まれたからホッとした。これで僕は、何事も挑戦あるのみということを学んだ。（Aさん）
- あの時、すごく動画をとってたけど本当によかったのか。ニコは緊張していたんだと思う。小屋作りはやってよかった。やらなかったら、赤ちゃんは脱走してたと思う。餌の量とかも増やしたり減らしたりしてニコたちのためにもなったと思う。…やっぱりニコがいなかったらこんない経験を味わえなかったけど、ニコがいたからいいことをできたし、ミッケはいやって思ってる人もいるかも知れないけど、ミッケがいなかったら交尾もできないし…。「公共施設を守る人」みたいに、周り人の手助けが必要だった。（Lさん）
- わたしは、少しさびしい気持ちがあります。ニコは、赤ちゃんのことを守るから、その分強くなってしまからです。わたしは、ニコには強くはなってほしくはないと思います。なので、わたしは少しさびしいと思います。（Mさん）

子どもたちにとって大切だったことは、ニコが安産で幸を産んだという事実であり、今、目の前にニコと幸が生きているということだったのではないかと思います。不安が一気に晴れる安心、これまでに味わったことのない喜び、お母さんになったニコのすごさ、かわいくてたまらないニコとミッケの子「幸」への愛、出産までのわたしたち、これからのわたしたち、そういったことをそれぞれに胸いっぱいを感じるということが、子どもたちにとって本当に大切なことであったのだと思いました。中には、自分が学びとったことを言葉にする姿、ニコと幸を見ていた自分たちを見つめ直す姿、ニコの変化に不安をもつ姿もありました。子どもたち、本当にすごいなと思いました。

「先生はどうだったの？」と聞かれました。「正直ね…」と、わたしは、上に書いたことを子どもたちに伝えました。「一人でそんな責任感なくていいのに」と言葉をもらいました。そのものを共に見て、その時を共に感じることに、大切にしたいと改めて感じました。「共に在る」って何かと、また問われている気がします。

